

ハワイ観測所自動車安全運転ガイドライン

Subaru Telescope Safe Driving Guidelines の日本語版

1. ガイドラインの目的と導入

- 1.1. 本ガイドラインは、ハワイ観測所の車両に起因する、または関連する車両事故を防止するために作成された。車両の運転は、ほとんどの従業員にとって重要な業務である。ハワイ観測所は、その運用において従業員の安全運転に依存しており、交通事故は、運転者、同乗者、その他の人々の負傷や、ハワイ観測所およびその他の財産への損害など、最も悲劇的な人命の損失を引き起こす可能性がある。一つの交通事故が、ハワイ観測所プロジェクトの継続に大きな影響を与える可能性がある。
- 1.2. 運転者は、すべての交通規則とハワイ観測所の車両ポリシーに従い、安全運転を心がけなければならない。ハワイ観測所は、従業員が安全に車両を運転できるよう確認しなければならない。従業員が運転できるのは、完全に能力がある場合のみであり、従業員が疲労している、病気である、眠い、または精神的な問題がある場合、ハワイ観測所は従業員の状態を評価し、運転可能かどうかを判断しなければならない。
- 1.3. ハワイ観測所の車両を運転する際は、町中のみの運転であっても山頂施設までの運転であっても、筆記試験と運転技能試験に合格しなければならない（ハワイ運転免許証の所持者、または過去の所持者は筆記試験が免除される）。本トレーニングは、筆記試験に合格した者、または免除され運転技能試験に合格した者を対象とする。このトレーニングで扱う以下の項目は、受講後も随時復習を要する。これらの指示はあくまでガイドラインであり、悪天候の際には追加の注意手順が求められる場合がある。すべての運転者は、このガイドラインに基づいて安全運転を実践しなければならない。運転者としての資格を更新するためには、2年ごとに教室でのトレーニング（座学研修）を受講することが義務付けられている。
- 1.4. 運転者資格の詳細については、Subaru Telescope Vehicle Policy を参照すること。
- 1.5. 車両管理者は Safety Officer、車両副管理者(A)は Lead of Science Operation、車両副管理者(B)は Lead of Operation である。

2. At All Times

- 2.1. 運転前後に車両の外観を確認する。損傷を見つけた場合は、vehicle operation center (934-5000)に通知するか、vehicle@naoj.org にメールする。損傷の発見が遅れると、車両の修理も遅れ、多くの人に不便をかけることになる。
- 2.2. ハワイ観測所の車両に乗車中は、運転者および全乗客はシートベルトを着用しなければならない。
- 2.3. 運転者は運転中に携帯電話を使用してはならない。
- 2.4. すべての交通規則と規制に従わなければならない。
- 2.5. カーブに近づく際は、黄色の交通注意標識と制限速度を守ること。カーブに入る前に速度を制御する。

2. 6. 道路脇にはマイルマーカース番号が記された小さな緑色の標識がある。マイルマーカースは、故障や事故の際に位置を報告する必要がある場合に役立つ。
2. 7. 対向車両だけでなく、後方の交通にも注意すること。
2. 8. 安全運転速度は常に同じではない。車両の位置、積載量、天候、時刻、道路状況、車両の種類、視界、運転者の能力、運転者の状態など、すべてが制限速度より遅い速度での運転を必要とする場合がある。下り坂での加速に注意すること。特にハレポハク (HP) から上の山頂アクセス道路では、制限速度またはそれ以下を厳守する。CMS は速度測定レポートをハワイ観測所の安全担当者に通知する。安全担当者は、制限速度を超えて記録された車両の運転者に連絡と取り、記録された速度が制限速度を 5 マイル超えている場合、懲戒処分が取られる。速度超過の繰り返しは、重大な懲戒処分の対象となる場合がある。
2. 9. ハワイ観測所の車両を運転中に発生した速度超過または交通違反は、運転者の責任となる。
2. 10. 車両を追い越す場合は特に注意を払うこと。ハワイ観測所は車両の追い越しを推奨しないが、車両を追い越す必要がある場合は、追い越し中も制限速度内で運転し、十分な距離先に対向車が見えないことを確認すること。対向車線が 2 車線ある場合、対向車が見える場合は中央線を越えないこと。対向車がいつでも車線変更する可能性があるとして想定しておくこと。一度に複数の車両を追い越そうとしないこと。
2. 11. 高速走行により多くの事故が発生している。常に安全運転速度を維持し、常に警戒すること。同乗者がいない状態で運転していて、疲労や疲れを感じた場合は、安全な場所を見つけて停車し、休憩を取り、車両を安全に操作できる状態になる休むこと。または、疲れていない、眠くない、ハワイ観測所の車両を運転する権限のある同乗者がいる場合は、その人に運転を交代を依頼する。
2. 12. 携帯電話を充電器に接続し、充電器をシガーライターに差し込んでおく。この携帯電話の主な目的は、事故や車のトラブルの際の通信用である。
2. 13. 運転中にタイヤのパンクや機械的な問題が発生した場合は、落ち着いて前方の道路を確認し、安全で平らな場所を探してサインを出し、道路からできるだけ離れた場所に停車させる。すぐに vehicle operation center (934-5000) に連絡して何が起こったかを報告する。車内で携帯電話を使用する場合は、車両を駐車してエンジンを切ってから行う。
2. 14. 車両には、目的地、出発/到着時刻、運転者の名前、同乗者の名前(いる場合)を記録するための車両ログバインダーがある。目的地に到着したら、車両ログに記入する。緊急連絡先電話番号、車両運用センターの電話番号、その他の重要な電話番号も車両ログバインダーに入っている書類に記載されている。
2. 15. パンクしたタイヤを交換する場合は、できるだけ平らな場所に車両を駐車すること。パンクしたタイヤは最も高い地面に置く。低い地面にあるタイヤを持ち上げようとする、車両の過度な重量によってジャッキが崩壊する可能性がある。ジャッキの適切な配置とスペアタイヤの取り外し方法については、車両オーナーズマニュアルを参照すること。
2. 16. ドライブレコーダー(カメラ)が、運転者/乗客の安全のため、および運転履歴の証拠を保持するために車両に設置されている。運転者は運転を開始する前に、レコーダーが動作していることを確認する。車両管理者の許可なく、レコーダーを改ざんしたり、オフにしたり、カメラを別の方向に動かしたりしないこと。
2. 17. エアバッグの安全のために、両足を車の床につけて座り、腰ベルトと肩ベルトの両方をしっかりと正しい位置で装着する。ダッシュボードに足を置いたりしないこと。

2. 18. ハワイ観測所の車両内で飲食は制限しないが、こぼれにくい容器の使用が推奨する。ハワイ観測所車両内でこぼした場合は、きれいに拭き取ること。

3. 事故の場合

3. 1. ハワイ観測所に属さない財産/車両の人命の損失、負傷、または損害を伴う事故の場合：

3. 1. 1. 交通を妨げないように直ちに停止する。対向車に警告する。
3. 1. 2. イグニッションをオフにし、火災に注意する。
3. 1. 3. 負傷者を支援し、911 に電話する。
3. 1. 4. 関与した他の車のライセンス番号、メーカー、モデルを記録する。
3. 1. 5. 他の運転者、目撃者、負傷者の名前と住所を記録する。
3. 1. 6. 車の位置やその他の詳細を示す現場の簡単な図を作成する。
3. 1. 7. 可能であれば、現場と損傷の写真を撮影する。
3. 1. 8. 事故現場で急いで示談を受け入れない。
3. 1. 9. 保険代理店(Noguchi & Associates, Inc. (808) 596-2700) に通知する。
3. 1. 10. ハワイ観測所緊急連絡チーム(ECT) 934-5911 に電話する。
3. 1. 11. 24 時間以内に「SUBARU TELESCOPE SAFETY, HEALTH AND ENVIRONMENT REPORT」を安全担当者に提出する。
3. 1. 12. RCUH 従業員が負傷した場合、監督者は 24 時間以内に「RCUH' S SUPERVISOR' S REPORT OF INDUSTRIAL INJURY」をハワイ観測所の HR に提出する。

3. 2. 人命の損失や負傷は伴わないが、ハワイ観測所に属する財産/車両の損害を伴う事故の場合：

3. 2. 1. 車の位置やその他の詳細を示す現場の簡単な図を作成する。
3. 2. 2. 可能であれば、現場と損傷の写真を撮影する。
3. 2. 3. 平日 8 時から 16 時半までは車両運用センター(934-5000)に電話する。それ以外の時間帯はハワイ観測所緊急連絡チーム ECT (934-5911) に電話する。
3. 2. 4. 車両の操作に不快感を感じる場合は、車両運用センター(934-5000)または ECT メンバーに代替交通手段の手配を依頼する。
3. 2. 5. 24 時間以内に「SUBARU TELESCOPE SAFETY, HEALTH AND ENVIRONMENT REPORT」を安全担当者に提出する。

4. 山麓施設にて

4. 1. NAOJ ウェブサイトのすばる車両予約システムからすばる車両を予約する。
4. 2. 単独で運転することは避けること。事前に少なくとも 1 人の同乗者を手配すること。一人で運転しなければならない場合は、山頂施設へ移動する際に監視者を指定すること。町の中だけを運転する場合や、ワイメアなど他の町へ運転する場合は、監視者を指定する必要はない。監視者は、スタッフメンバーまたは以下の手順を知っている他の成人でもよい。監視者に出発することを伝える。山頂に到着したら、監視者に電話する。監視者が電話を受けない場合、または運転者が到着したことを確認できない場合は、監視者は山頂施設または他の目的地に電話して、運転者が到着したことを

確認する必要がある。到着が確認できない場合は、監視者は緊急連絡チーム (ECT: 934-5911) に電話しなければならない。

- 4.3. ハワイ観測所車両予約システムは運転記録を追跡するために使用されているため、運転者の名前は正確に入力すること。予約が「デイクルー」、「TED」、または運転者の名前を表していない何かで行われている場合は、運転を開始する前に自分の名前に変更すること。
- 4.4. 悪い道路状況が予想される場合は、MKSS 道路状況 (935-6268) に電話して、ハレポハクより上の道路状況を確認すること。
- 4.5. 携帯電話と車両キーを取得する。
- 4.6. キーボックスの近くのコンピューターを使用して、ハワイ観測所車両予約システムに同乗者の名前を入力し、出発時刻をクリックする。
- 4.7. ハワイ観測所山麓施設を出発する前に、車両の目視点検を行う。タイヤ、スノーチェーン、その他の車両アクセサリーを確認する。運転を開始する前に、ヘッドライトスイッチの位置、方向指示器スイッチの位置、ワイパースwitchの位置、ジャッキの位置を確認すること。エンジンチェックライト、低タイヤ圧カイト、またはその他の車両の問題などのサービスライトまたは警告ライトが点灯している場合は、すぐに vehicle@naoj.org、車両運用センター (934-5000)、または車両副管理者 (B) に報告する。
- 4.8. 出発前に燃料レベルを確認する。燃料タンクの燃料レベルが半分未満の場合は、ガソリンスタンドでタンクを満タンにすること。ハワイ観測所は 360 Kaumana Drive の HELE ガソリンスタンドにアカウントがある。各車両にガソリン料金カードが割り当てられており、ポーチが車両ログバインダーに取り付けられている。すべての運転者には独自の PIN 番号が与えられる。PIN 番号は 4 桁の内線電話番号と同じで、内線番号を持たないスタッフメンバーまたは訪問者には、異なる PIN 番号が割り当てられる。PIN 番号を取得するには、経理部門に連絡すること。HELE ガソリンスタンドでの車両給油手順は次のとおり：
 - 4.8.1. 外のポンプの支払いパネルを使用してください。
 - 4.8.2. ポンプのパネルに「Enter Loyalty #」サインが表示されるまで待ち、「矢印」マークを押す。
 - 4.8.3. 車両内のガソリンカードにテープで貼られているロイヤルティ番号を入力する。
 - 4.8.4. ガソリンカードを挿入す。
 - 4.8.5. オドメーターを聞かれたら、車両番号を入力する。(例: J-8 の場合は「8」)。
 - 4.8.6. ドライバー ID の PIN 番号 (4 桁の内線電話番号) を入力する。
 - 4.8.7. レシートの印刷に「Yes」を入力する。(印刷されたレシートが出てくる)。
 - 4.8.8. レシートをヒロオフィスに持ち帰る。
 - 4.8.9. レシートに名前と車両番号を記入し、車両キーキャビネットの横にある「Gasoline Receipt」ボックスに入れておく。

5. 山麓施設からハレポハクまで

- 5.1. 法定制限速度は、サドルロードまたはダニエル・K・イノウエハイウェイのヒロ側で 35、40、45、55、60 マイルです。マウナケアアクセスロードの制限速度は 30 および 40 マイルである。

- 5.2. サドルロードでの多くの事故の原因は速度超過である。車両のスピードメーターを頻繁に監視し、常に安全な運転速度を維持すること。天候と道路状況に注意し、状況が非常に速く変化する可能性があることを認識しておくこと。
- 5.3. VIS (Maunakea Visitor Information Station) に近づくときは、速度を 20 マイル以下に減速する。エリアに出入りする歩行者や観光車両に注意する。MK レンジャーが VIS 近くでブレーキディスクの温度検査を実施しているため、前方の減速または停止している車両に注意する。

6. ハレポハクにて

- 6.1. 駐車場の利用可能なスペースに車両を駐車する。
- 6.2. ハレポハク施設のメインロビーにホワイトボードとコンピューターディスプレイがあり、そこに、雪や氷、天気予報、スノーチェーン情報が表示される。
- 6.3. ハワイ観測所オフィス内にあるコンピューターを使用して、車両予約システムで到着/出発時刻をクリックする。高度順応のため、山頂に 8 時間以下滞在する予定の場合、山頂まで運転する前に、ハレポハクで少なくとも 30 分休憩する必要がある。
- 6.4. 衛星電話(国コード:8707、その後 7640-4784)がハレポハク施設内のハワイ観測所オフィスに保管されている。この電話は、ハレポハクと山頂間の運転中に夜勤クルーが緊急使用するためのものである。道路/天候状態が悪く、運転中の通信を確保する必要があると判断した場合は、日中に使用できるが、夜勤クルーに電話の使用者/保持者を知らせておくこと。
- 6.5. ハレポハクのステーションで給油ができる。メインロビーのフロントデスクにあるクリップボード付きのキーを取って、ハレポハクメインビルディングの上階にあるステーションへに行く。メーターをゼロにリセットするためのノブを回し、キーでガス供給器のロックを解除し、供給器ソケットのハンドルを自分の方に向けてから、給油を開始する。ログに名前、車両名、登録番号、メーター読み取り値、取得したガロンを読みやすく記録する。給油後、バーを上げ、供給器を戻し、ロックしてから、クリップボード付きのキーをフロントデスクに返却する。
- 6.6. 道路が一般には閉鎖されているが、MK0(マウナケア観測所)には開放されている場合、山頂への配達やサービス提供のために請負業者やベンダーが行く際は、受け入れ担当部署が山頂への往復の付き添いを提供し、レンジャーに訪問を通知しなければならない。

7. ハレポハクから山頂まで

- 7.1. ハレポハクより上のダートロードでは 4WD を使用してください(4WD 高速レンジまたは 4WD 低速レンジ)。
- 7.2. 4WD 低速レンジへの切り替え、または 4WD 低速レンジからの切り替えを行う際は、車両を停止させ、ニュートラルに入れ、ブレーキをかけた状態でなければならない。2WD から 4WD 高速レンジへの切り替えは、車両を停止させる必要はない。未舗装道路では、上り坂でも下り坂でも 4WD を使用すること。4WD システムの入れ方と切り方については、車両の取扱説明書の指示に従うこと。
- 7.3. 4WD は、未舗装道路、または舗装されているが凍結または濡れて滑りやすい道路で、発進時や加速時の空転を防ぐために推奨される。舗装された乾いた道路では必ず 2WD に切り替えること。4WD は加速補助であり、車両の停止には役立たない。凍結または滑りやすい状況では、タイヤチェーンを

装着し、ゆっくりと注意深く運転すること。制動性能は駆動方式の影響を受けないため、十分な車間距離を保ち、早めにブレーキをかけることが重要である。可能な限り直線区間で意識的に十分に減速するよう努めること。エンジンブレーキを効果的に活用するには、2WD 高速レンジおよび 4WD 高速レンジでは 1 速ギア、4WD 低速レンジでは 3 速以下のギアを使用することが推奨される。シフトダウン時(例:3 速から 2 速へ) は、シフト操作が完了するまでブレーキペダルを踏み続けることが望ましい。

- 7.4. Summit Road とダートロードの制限速度は 25 マイルである。Submillimeter Array (SMA)横からずばる望遠鏡までのアクセスロードの制限速度は 5 マイルである。制限速度に従うこと。
- 7.5. 東に向かって運転している時、日の出の直後は太陽が視界の真正面にあるため、運転が非常に難しくなる。同様の状況は、西に向かって運転している時の日没前にも起こる。クリアな視界を確保するためには、きれいなフロントガラスが不可欠である。対向車はこの問題に直面しない。注意を払い、それに応じて速度を落とすこと。
- 7.6. 「KEEP RIGHT」とは、道路の右側を走行することを意味する。常に右側を走行すること。また、道路整地車（グレーダー）には優先通行権があることを認識しておく必要がある。注意が必要なのは、オペレーターがあなたの車が見えていない可能性がある。
- 7.7. 低速ギアで上り坂または下り坂を運転するときは、車両のエンジン温度計とエンジンタコメーター、および速度を監視すること。長時間の高エンジン RPM は、エンジンの過熱とエンジン損傷を引き起こす可能性がある。
- 7.8. サミットロード上で他の車両を追い越す際は、細心の注意を払うこと。自分ではそう感じていなくても、他のドライバーからは運転が攻撃的すぎると認識される可能性がある。他のドライバーからの苦情は、通常 MKSS から当部門の責任者に報告される。苦情は調査の対象となり、運転者は懲戒処分の対象となる。前方を走行する車両の運転者から指示があった場合のみ、他の車両を追い越すことができる。
- 7.9. 夕方に山頂エリアで運転する際は、ロービームヘッドライトを使用する。
- 7.10. 山頂施設の駐車場で二重駐車(別の車両の前/後ろに駐車)しないでください。二重駐車は、緊急時に迅速な避難を困難にする可能性がある。
- 7.11. 安全委員会は、すべての運転者が山頂駐車場で車両を後方に駐車することを推奨している。車両を後方に駐車することには次の利点がある：
 - 7.11.1. 明るい時間帯で注意力が十分にある状態で車両をバックさせる方が、暗くなってから疲労している状態でバックさせるよりも事故の可能性が低い。
 - 7.11.2. バック駐車は、山頂施設からの迅速な避難を可能にする。
- 7.12. 到着時に制御棟のスタッフルームの車両予約システムで到着時刻をクリックし、車両予約用のコンピューターの横のビンにキーを入れる。単独で運転した場合は、山頂施設に安全に到着したことを監視者に知らせる。
- 7.13. 単独運転を避ける。単独運転は眠気を引き起こし、事故の際の通知の遅延を引き起こす可能性がある。夜間運用では、オペレーター、サポートアストロノマー、天文学者、観測者は調整し、各車両に少なくとも 1 人を同乗させる必要がある。
- 7.14. 夜勤クルー(オペレーターとサポート天文学者)は、山頂施設への移動に少なくとも 2 台の車両を使用し、安全を確保するために車両のバディシステムを適用必要がある。

7. 15. 7. 13 と 7. 14 は、夜間作業員と訪問者の合計人数が 4 人未満の場合、互いに矛盾する可能性がある。そのような場合は、2 台の車両を使用すること。そして、安全を確保するために車両のボディシステムを使用すること。ボディシステムでは、一方の車両の運転者がもう一方の車両を見守ることができる。
7. 16. 運転者と同乗者の安全が保証され、オペレーターが承認する限り、例外は許可される。オペレーターは夜間作業の安全責任者である。以下は、単独運転者が自身の安全を確保する方法の一例である。単独運転者が山頂を出発する前に、山頂または HP に残る夜間作業員に対し、HP に到着したら電話すると伝えること。運転者が HP までの妥当な移動時間内（例えば 40 分程度）に夜間作業員に電話しない場合、作業員は運転者または目的地に電話をかけて捜索活動を開始する。到着が確認できない場合、夜間作業員は緊急連絡チーム（ECT: 934-5911）に連絡すべきである。

8. 山頂施設から山麓施設までの運転目的

8. 1. 山頂施設から出発するときは、制御棟スタッフルームの自動車予約システムで出発時間の箇所をクリックする。表示されている制限速度に従って走行する。
8. 2. 夜間に山頂区域を運転する際には、ロービームのヘッドライトを点灯する。
8. 3. ハレポハクへ下る未舗装道路では、ブレーキの過度な使用を避けるため、4WD で低速ギアを使用すること。ハレポハクへ下る未舗装道路では、ブレーキの過度な使用を避けるため、4WD で低速ギアを使用すること。4WD 高速ギアを使用する場合は 1 速ギアを使用すること。4WD 低速ギアを使用する場合は 3 速以下のギアを使用すること。時速 25 マイルを超えないようにギアを調整すること。
8. 4. ハレポハクからのくんだり道、最大 17% の勾配がある舗装道路を下る際は、2WD 低速ギアを使用すること。ブレーキローターとパッドの過熱によるブレーキ故障を避けるため、低速ギアにシフトしてエンジnbrakeを効かせること。
8. 5. サドルロードを下る運転は、登る運転よりも危険である。サドルロードを下っている間、他の車両が車間距離を詰めて追従してくる可能性がある。速度を上げてはならない。安全な運転速度を維持すること。多数の車両が後ろにいて、それらを先に行かせる必要があると感じた場合は、前方の道路をスキャンして安全な場所を見つけ、合図を出してから路肩に寄せること。
8. 6. 次にその車両を使用するドライバーのために、山麓施設へ到着するときの燃料の残量が半分以下を示す場合は給油をしてから車を戻すこと。
8. 7. 車両を山麓施設へ返却する時は、個人の持ち物や携帯電話は車から降ろすこと。各車両に置いてある運転記録簿に必要事項を記入し、ヘッドライトを消しドアをロックする。車の鍵と携帯電話はもとの場所に戻し、自動車予約システムの到着時間をクリックする。

9. 冬場の運転

9. 1. 冬の期間には、道路の凍結や積雪、強風による Maunakea Road の閉鎖がよくみられる。山頂へ向かう前には、Maunakea Road Condition や MK レンジャーから配信される最新の情報を確認する。
9. 2. MKSS Utility によるすばる望遠鏡施設周辺の除雪作業が終了するまではハレポハクで待機しておく。山頂のエリアによっては除雪作業状況が異なるため、全ての道路が安全に通行できるとは限らない。

- 9.3. Summit Access Road を運転する場合は、タイヤチェーン装着のトレーニングを受けなければならない。
- 9.4. 悪路状況下では、自分の運転技術を過信してはならない。タイヤチェーンを使用するか、山頂への移動を中止するか判断は、これらの選択肢が利用できなくなるような状況に追い込まれる前に、十分早い段階で行うべきである。
- 9.5. スタッドタイヤを装着していない車両のドライバーは下記の場合はチェーンを装着すること。
 - 9.5.1. 昼間または夜間のいずれの時点においても、山頂の湿度（VLBA 以上の標高において）が 90% 以上で、山頂の温度（VLBA 以上の標高において）は-1 度未満であるとき。
 - 9.5.2. または、レンジャーがチェーンの装着を推奨した場合。
- 9.6. 日の出の前に、山頂の舗装道路に雪や氷が降り積もると、スタッドタイヤを装着していない車両はチェーンを装着が必要となる。山頂で雪や氷の可能性が高い場合は、山頂まで運転をする前にハレポハクでチェーンを装着する方が賢明である。
- 9.7. レンジャー、ハワイ観測所、他の観測所のスタッフのいずれから、道路は乾燥しているという報告を受け取った場合は、その後の温度と湿度が上記の値を超えない限り、チェーンを装着する必要はない。
- 9.8. 山頂の駐車場が乾いていても、下り坂では路面にブラックアイスが形成される可能性がある。冬季には滑落事故が頻繁に発生するが、出発地点の天候に基づいて経路沿いの路面状況を判断することは困難である。したがって、舗装道路であっても、運転者が路面状況が滑りやすい可能性があるかと判断した場合は、4WD 高速ギアの 1 速（または 4WD 低速ギアの場合は 3 速以下）を使用することが推奨される。ただし、4WD モード（4H と 4L の両方）では、2WD（2H）と比較して車両の直進傾向が強く、コーナーでの方向転換が困難になる。このため、直線区間で十分に減速することが重要である。
- 9.9. 摩擦力を高めるために、運転手はスタッドタイヤの上に、チェーンを装着することができる。
- 9.10. どのタイヤにタイヤチェーンを装着すべきかについては、車両の取扱説明書を参照すること。例えば、4Runner の取扱説明書では、タイヤチェーンは後輪のみに装着するよう指示されている。
- 9.11. スタッドタイヤが装着されていない場合、タイヤチェーンを装着するかどうかの判断は各車両の運転者の責任である。スタッドタイヤが装着されておらず、運転者のうち誰か一人でもタイヤチェーンの装着を決定した場合は、車列内のすべての車両がタイヤチェーンを装着すべきである。
- 9.12. Tyre-grip と呼ばれる氷に対してタイヤの摩擦力を増加させるスプレー缶は、山頂施設制御棟 1 階とハレポハクの機械/車両工場の壁面にある黄色の Flammable Cabinet に保管してある。スプレーの性能を過信しすぎずに、スプレーの効果が不明な場合は代わりにタイヤチェーンを使用すること。昼間は車内にスプレー缶を放置しないこと。スプレー缶は過剰な熱で爆発する可能性がある。
- 9.13. 冬季（通常 9 月から 3 月）には、夜間作業員用に 2 台の車両を割り当てる。割り当てられた車両は、次の定期車両整備までヒロに戻ることなくハレポハクに留まり、使用中は常にスタッドタイヤが装着される。夜間作業員は、通常のタイヤを装着した車でヒロとハレポハク間を移動する。
- 9.14. 山麓施設とハレポハク間の移動のためにレンタカーを借りる場合、それを運転することが許可される運転者が限定される可能性がある。運転前にオペレーションセンターに確認すること。レンタカーの運用と配分については、常にオペレーション部門と車両チームからの指示に従うこと。

10. 荷物の輸送

10. 1. 運転者が積載物の積み込みと固定作業の立ち会いと監視を明示的に禁止されていない限り、車両上の積載物の確実な輸送は運転者の責任である。運転者は、他の誰かが運転を引き継ぐまで、他の誰かが荷降ろしを開始するまで、または他の誰かが積載物の取り扱いと固定の責任を引き継ぐまで、積載物の安全な取り扱いと固定に対して責任を負う。運転者が自身の運転した積載物を載せた車両から離れる場合でも、上記の条件のいずれかが満たされるまで、運転者は積載物の保管と固定に対する責任を負い続ける。
10. 2. 情報開示が明確に禁止されていない限り、運転者は車両またはトラックの積載物の内容を把握していなければならない。危険物については、運輸省の規則と緊急対応手順に関して安全管理者に相談すること。
10. 3. 運輸省によってプラカードの掲示が義務付けられるような大量の危険物の輸送は禁止されている。
10. 4. 減圧弁を備えたシリンダーや大量の圧縮ガスおよび冷却用のガスは、トラックの荷台に積み込んで輸送しなければならない。それらを車室内に保管すると、酸素欠乏の原因となる可能性があるため禁止されている。
10. 5. 輸送に関連するマニフェストの文書化など、すべての要件について誰かが責任を負わない限り、有害廃棄物の輸送は禁止されている。有害廃棄物の回収については、専門の廃棄物処理業者を呼ぶ。詳細については、経理部門または安全担当者に連絡すること。
10. 6. J-8 の運転は特別な講習を修了した者のみが運転できる。

11. ドライブレコーダー

11. 1. すべての車両には、ルームミラー一体型ドライブレコーダーが装備されている。ドライブレコーダーの目的は、車両周辺の人々の活動および運転者/同乗者とのやり取りを記録することである。出発前に、ドライブレコーダーが正常に作動していることを確認すること。許可なく電源を切ってはならない。カメラの位置を動かしたり、充電コードを抜いたり、設定を変更したりしてはならない。ドライブレコーダーに異常や問題を発見した場合は、vehicle@naoj.org に報告すること。
11. 2. カメラの位置を動かすことは可能である。ただし、撮影が終わったら、カメラを元の位置に戻すこと。
11. 3. このドライブレコーダーは音声も記録することに留意すること。同乗者に対し、ドライブレコーダーが音声を記録していることを知らせること。カードに記録された映像および音声データは、必要な場合に限り調査のために取り出される可能性がある。ほとんどの場合、カードがいっぱいになると、新しいデータのためのスペースを確保するため、カード上のデータは自動的に削除される。

ハワイ観測所自動車安全運転トレーニング 修了の確認証

私は、インストラクターの指導内容を理解し、安全運転ガイドラインの説明を読み理解しました。私は、ハワイ州の交通ルールや法律を理解し、ハワイ観測所自動車運転規則についても理解しました。

2024 年 12 月 4 日付自動車運転ガイドラインを適用

受講者氏名 _____

署名 _____ 日付 _____

Safety Manager _____

署名 _____ 日付 _____